

植 調

第 1 卷
第 9 号

昭和 43 年
3 月 発行

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

目 次

稲のマルチ栽培の現状と問題点 (農林省農事試験場 畑作部 中沢秋雄)	1
最近の海外関係ニュース	3
除草剤の今後の方向(9) (農林省農事試験場 農学博士 荒井正雄)	4
昭和42年度畑作用除草剤試験成績概要	7
昭和42年度水稲作実用化除草剤使用基準一覧表	13

敵を滅ぼそうとする者は先ず敵を知るにある

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党

戦争をする者は、先ず第一に斥候を出して敵状をつぶさに偵察する。何時、何処で、何が、どの位、何をしていたかを知ることが大切である。農業は雑草との戦であるといわれる。すべからく雑草と戦わんとする者は、草を知らなければならない。従来の植物図鑑には成体となった草の図や説明が書いてあり、その生態については僅かにその開花結実時期が説明してある程度であった。幸いに、最近

対象とした記事や著書が見られるようになったことは誠に喜ばしい。しかし、草には幼少な時と生育した後とでは葉の形態なども著しく異なるものが少なくないし、また種子で区別を知りたい場合がしばしばある。これらの点を満足させることに特に考慮を払い、農業における雑草の種類・生態を容易に判ることを目的として、当協会が雑草図鑑の刊行を企劃し既に3年余、ようやく発刊の運びとなった。関係者の参考となれば幸いである。

新発売

畑地用 除草剤の決定版！

エフタム乳剤 (EPTC)

播種或は移植前 **土壌混層** 処理剤

〔作物〕

テンサイ

菜 豆

馬 鈴 薯

コ ー ン

林 業 苗 床

牧草地転換

〔特長〕

- 散布後土壌混和する全く新しいタイプの除草剤です。
- 土壌混和する事に依りいかなる気候条件にも確実な効果を発揮します。
- 広範囲の雑草を長期間抑えます。
- シバムギ・コヌカグサ等の宿根性イネ科雑草にも卓効を示します。

発売元・北海三共株式会社

輸入元・東洋棉花(株)化学品部



農業用早どりビニール

ノービエース®

ノービエースは、従来単に保温を目的として作られていた農業ビニールに、作物の生育促進性を付与した画期的な農ビで、
発明協会賞が授与されました。
その効果は、全国的に立証され、
大へん好評をいただいております。

発明協会賞受賞 特許製品



三菱モンサント化成株式会社

本社 東京都千代田区丸の内2の4 (三菱本館)

稲のマルチ栽培の現状と問題点

農林省農事試験場畑作部作業体系第1研究室長 中 沢 秋 雄

ポリエチレンフィルムに一定の間隔で植え穴をあけて、陸稲の栽培を千葉県農家がこゝろみた。その結果、増収の可能性があると近頃はもとより東北や九州までも話題を呼ぶに至った。昨年度その普及面積は約3,000haであり本年度も増収の傾向にあるといわれている。

しかし、民間から発足した技術であるためいまだ理論的説明や普及の条件など不明の点が多いので、昭和40年より官公立の農業試験場でこの説明にあたった。したがって、研究と技術指導が同時併行しておこなわれたため多少の混乱はまぬかれなかった。

試験研究は未だ2年を経過したばかりであるが、増収の可能性と作季の促進効果などが期待され、今後の技術体系化とともに農家に普及できるものと確信されるようになった。

すなわち、ホーリーシートの環境に対する直接影響と、これが水稲陸の生育収量におよぼす効果がよく明らかとなり、環境に対する直接的効果として1)シート下の地温は上昇し、夜間もなお、裸地より高い。2)シート下の土壌水分は保持され、稲の生育に必要な水分を供給できる。3)肥料の溶脱は完全に防止でき、硝化作用も早期に活発となり、しかもシートのため脱窒されない。また、有機物の分解も高温のため促進されて、肥効がたかまる。4)シート下の土壌の孔隙量は多く、しかも生育後期まで維持される。

以上のような条件は、稲の生育にとって有利なものであり、この環境下で生育された稲は、1)早期に播種が可能となり、特に生育促進には著しい効果を果している。すなわち、播種は従来の裸地播種限界より10～15日早く播種ことができ、出芽期間も短縮される。その後の環境にめぐまれ、生育は促進されていき、その結果として、草丈・莖数は増大し、主稈葉の展開も早く、またその葉数も1枚位多くなる。

根の伸長も旺盛で深く、広く張るので、養分吸収量は多くなる。それがため、地上部の窒素濃度も高めに経過する。一方、葉身葉鞘比も小さいことからみて、受光態勢もよいので、同化効率は高くなっている。

増収に結びつく要因として、とくに有効莖が著しく多いことがあげられる。この穂数の増加が、各地で増収をおさめている共通主因となっている。

裸地に比べ、一穂着粒数は少ないが、面積当りの穂数が多いので、この欠点をよくカバーしているとみてよい。

試験の結果粒重も多い。これは、もみ藁比が裸地より高まっている点からも窺うことができ、面積当りの粒数と粒重の増加からして、増収は必然と考えられる。

次に、早期播種や生育促進などにより、成熟期が早まり、次記の種々発生する災害を回避す

る効果もまた大きい。

すなわち、東北地方では多収性品種で、出穂期を秋冷になる前にもっていくことができるので、登熟障害を軽減できるし、東北・関東地方などの早ばつも相当程度回避できるものと考えられ、とくに南関東から西にかけておこる7月中旬からの強度の早がいに對しても、適当な早生稲を用いることにより、ある程度対処できそうである。さらにまた、九州地方では8月中旬頃から台風の被害をうける頻度がたかまるので、この時期前に刈り取られるよう出穂を促進させる可能性もでてきている。

このようにして、場所によっては多収となり、また災害常習地ではその災害を回避する可能性を多分に含んだ技術といえることができる。

◎問題点

この技術は開発されてから日が浅く、不明の点や栽培技術上の問題点がないとはいえない。

1) 増収上の問題点

すでに述べたように、増収要因および増収決定要素はプラスになるが、地力施肥などのかね合で多くの問題を残している。とくに注目しなければならないことは、成績の多くが倒伏による減収を報告していることである。シートによるマルチ栽培は、生育量の増大、穂への養分移行の増大、および根の支持力などから考えて、倒伏の危険性が裸地より大きい。折角増大した初期の効果は、倒伏で一挙に無くなってしまう。倒伏は減収のみならず品質にも影響するので、この栽培ではとくに注意しなければならない問題である。

この倒伏は、施肥量とくに窒素量が多かったためであるから、施肥に当っては慎重を期さねばならないが、この施肥量決定は残存す

る供給量との関係でむづかしいことになる。

一方、施肥量が少なすぎると、初期生育促進の反動として、後期の凋落となって減少する。この倒伏と凋落の相反事象がマルチ栽培の場合、とくに顕著であるから、この点施肥技術の確立は重要である。一回の元肥で指導している現行から今後は追肥でそれをコントロールする必要もあり、また、緩効性肥料の効用など幾多の問題をのこしている。

2) 早害を完全に防止できない

作季とそれに適用する品種からみて、なお完全に前記諸地域における早ばつ期を回避することがむづかしい。早ばつは、年により変動するので、更に効果のふれは大きくなりそうである。畑かん施設のある圃場では問題はないが、早がいの常習地帯で畑かんのできない場合はこの技術を過信してはならない。とくに、稲体が大きくなるので要水量も余計かるため、土壌中の保水力があってもなお充分とはいえない。

3) 雑草防除

夏雑草の多発畑での除草法が問題であり、適性ある除草剤の選択および薬量の検討が必要である。

4) 播種作業

シート張りの機械化はすでに進みつつあるが播種作業が多労であるので、この解決は是非やりたいものである。

5) 刈取り時の品質保持

倒伏は、品質管理の面で最も大敵である。これは、裸地より問題があるので検討を要するが、同時に夏期収穫のため、品質保持を併せ検討する必要がある。

6) 品種の選定

早ばつ回避のための早生品種や水稻のマル

チ栽培に適性ある品種について問題があり、また不明の点も多いので、栽培法は勿論品種改良までに問題を残している。

7) 土地利用の問題

これらについては、作業面・地力面からの作付体系、適性規模など検討するとともに経営の評価と併行して実証につとめなければならない。

最近の海外関係ニュース

① ハワイ大学・オレゴン州立大学の共同計画による除草剤試験に、わが国からは、財団法人日本植物調節剤研究協会経由で、CNP(MO)乳剤・STI-100乳剤・SW-6721乳剤・SW-6802乳剤・TDW-6643乳剤・TDW-39乳剤が送られ、よい成績をあげているようである。

② 雑草防除学関係の第1回国際学会が、アメリカ雑草学会の発案で計画されていたが、最近のローマFAO本部からの連絡によると、1969年の夏、多分、アメリカのカルフォルニア州デービスで開催される予定のようである。

③ アジア・太平洋地域における雑草防除技術交換会議は、昨年ハワイで開催され、わが国からも9名の参加者があって盛況であった。次の会議は、技術研修を中心に今年の12月

フィリッピンで開催される予定であったが、アメリカの諸情勢から、当分延期されることになった。また昨夏の会議のProceedingの発刊もおくれているようである。

④ アメリカ化学会(ACS)の第155回全国大会が、3月31日～4月5日にサンフランシスコで開催される。その農薬分科会の主催で、「除草剤の作用機作」に関するシンポジウムが開催され、各種除草剤の作用機作(エネルギー代謝・光合成・核酸代謝)の講演、討論が行なわれる。わが国からは、農林省農業技術研究所 生理遺伝部 松中昭一技官が、アメリカ化学会に招待されて参加し、「ジフェニルエーテル系除草剤の作用機作およびDCPAに対する殺虫剤の共力効果」について講演を行なうことになっている。

除草剤の今後の方向 (9)

農林省農事試験場 農学博士 荒井 正 雄

除草剤の処理適期幅の検討

水田でも畑地でも、除草剤の除草効果は、農家の実際使用では試験場の試験成績より著しく劣る場合が少なくない。この原因にはいろいろあるが、一つの大きな原因として、現在実用化されている除草剤の多くは、雑草の生育ステージからみた処理適期幅が短いため、農家の実際使用の場合にいろいろの事情で処理適期より遅れて処理されることがあげられる。降雨、植代から田植までの日数の長いこと、労力不足などにより、処理適期を失することはしばしばである。除草剤を利用する上においてこの問題を解決するためには、雑草の葉令からみた処理適期幅が長い除草剤を開発することであろう。

雑草の葉令からみた除草剤の処理適期幅は、同一除草剤でも雑草の種類・使用量・温度などによっても違いがあるが、最も大きく支配する要素は除草剤の殺草作用性である。除草剤の殺草作用性から、この処理適期幅をこれまでに供試された除草剤についてみるに、おおよそ次のように類別することができよう。

(A) ……土壌処理除草剤または土壌処理兼雑草処理除草剤の場合。

A₁ ……発芽時から発生時までの時期の処理で殺草力が大きい除草剤（処理適期幅

極短）。

A₂ ……発芽時から0.5葉期頃までの時期の処理で殺草力が大きい除草剤（処理適期幅 短）。

A₃ ……発芽時から1葉期頃までの時期の処理で殺草力が大きい除草剤（処理適期幅 中）。

A₄ ……発芽時から2葉期頃までの時期の処理で殺草力が大きい除草剤（処理適期幅 長）。

A₅ ……発芽時から3葉期頃までの時期の処理で殺草力が大きい除草剤（処理適期幅 極長）。

(B) ……雑草処理除草剤の場合。

B₁ ……処理適期の期間の葉令差が0.5葉以下の除草剤（処理適期幅 極短）。

B₂ ……同上葉令差が1葉くらいの除草剤（処理適期幅 短）。

B₃ ……同上葉令差が2葉くらいの除草剤（処理適期幅 中）。

B₄ ……同上葉令差が3葉くらいの除草剤（処理適期幅 長）。

B₅ ……同上葉令差が4葉以上の除草剤（処理適期幅 極長）。

なお、除草剤の利用技術上の処理適期の期間は、上述の雑草の生育ステージと殺草効果との関係のほか、作物の生育ステージと薬害との

関係が大きく関与している。ただし、粒剤の湛水下処理では、作物の生育ステージと薬害との関係は処理適期の期間に関与する程度が小さい。

それでは、次に畑地除草剤と水田除草剤について、具体的に処理適期幅の問題を検討してみよう。

1. 畑地除草剤

現在畑地で広く実用化されているPCP, CAT, Cl-IPC, NIPなどの播種後土壌処理除草剤の処理適期幅はA₂程度のものが多いようである。それがため、実際の利用場面であるばかりでなく、雑草の発生活長によって除草効果が不安定である。その解決には、作物の出芽後の生育期に処理しても薬害が極めて軽微で、しかも雑草処理効果と土壌処理効果とが充分にある除草剤の開発が好ましい。このような利用特質を持つには、莖葉処理において作物・雑草間に選択殺草性を有し、しかも土壌処理効果のある除草剤ということになる。畑作物の種類は多いので、夫々の作物と雑草の間に莖葉処理選択殺草性の大きい除草剤を創製する必要がある。

以上述べたような性質を持つ除草剤が開発されたならば、処理適期の期間は極めて長く、農作業上から好都合となるばかりでなく、除草効果は安定してくる。

畑稲作に対するDCPA乳剤の処理適期幅はB₃程度であるので、上記の目的を若干満しているが、残念なことには土壌処理効果がないので、その特徴を充分に発揮できない感がある。

また、畑稲作に対するMCC水和剤の処理適期幅は、A₅程度ないしB₄程度であるので、雑草の生育ステージと殺草効果との関係のみからみれば、上記の目的をかなり満しうる性質を

持っている。しかし、残念なことには稲に対する薬害の関係から処理適期の期間は制限を受け、利用技術上の処理適期は播種直後から稲出芽期までである。MCCが莖葉処理においても稲・雑草間の選択殺草性がDCPAと同等程度に大きいならば、利用技術上の処理適期の期間は極めて長くなり、畑稲作の雑草防除の飛躍的な発展に大きな貢献をはたしうるのであるが。

畑地の耕起前（または播種前）や果樹園で広く実用化されているシアン酸ソーダ、パラコート、DCPA・NACなどの雑草処理除草剤の処理適期幅はB₅程度であり、利用技術的に処理適期の期間は余り問題とならないだろう。

2. 水田除草剤

水稻作の除草剤のうち、畑苗代・乾田直播栽培の乾田期間に実用化されている除草剤の処理適期の期間は、前述の畑稲の場合と同様である。

次に、水稻移植後の湛水下の土壌処理除草剤または土壌処理兼雑草処理除草剤について検討してみよう。

PCP粒剤およびPCPとフェノキシ系除草剤の混合粒剤（以下PCP系粒剤と略す）の処理適期幅はA₂程度である。PCP系の移植後土壌処理は、ノビエを始め一年生雑草全般の防除に極めて有効であるが、（フェノキシ系除草剤との混合粒剤は、ある程度マツバイにも有効である）、近年PCP系粒剤を使用するようになってから、出穂期以後のノビエが多くなってきたということをよく耳にする。その原因にはいろいろあろうが、一つの主要な原因として、PCP系粒剤の処理適期幅が短く、0.5葉以上のノビエには効果が小さいことがあげられる。

また、NIP粒剤、CNP粒剤およびそれらとフェノキシ系除草剤の混合粒剤の処理適期幅

は、P C P系粒剤よりもいくぶん長い、 A_3 程度であり、大きく改善されたとはいいがたい。

それがため、P C P系粒剤、N I P系粒剤、C N P系粒剤など、現在広く実用化されている移植後土壌処理除草剤は、植代・移植後の早期に処理する必要がある、実際の利用場面では、農作業の配分上誠に不便なため処理適期より遅れて処理しがちであり、また雑草の発消長によって除草効果が不安定になりがちである。この問題の解決には、湛水下において雑草処理効果と土壌処理効果とがある除草剤を開発することである。水稻移植後の湛水下の場合には粒剤として処理するならば、莖葉処理における水稻・雑草間の選択殺草性はあまり考慮する必要がないので、雑草の葉令からみた処理適期幅にシボリをおいて選びだすことができよう。

このような観点から、除草剤の創製研究者および利用研究者がこの数年来重点的に開発研究を進めてきた結果、以上の目的に合致すると思われる除草剤 ($A_4 \sim A_5$) がいくつか出現してきた。しかし、それら除草剤の利用技術を確立するためには、なお多くの研究を推進する必要がある。とくに湛水下における粒剤の土壌処理兼雑草処理であるので、粒剤の製剤法と殺草力との関係、縦滲透および横滲透による減水深と殺草力との関係、湛水深と殺草力との関係など、基礎的な研究を要する面が多い。なお、湛水下の雑草処理では、殺草効果を充分に発揮できる最大葉令は、ノビエで3葉期くらいにあるように感ずる。

一年生広葉雑草を主な対象として雑草処理を行なう2, 4-D, M C Pなどのフェノキシ系除草剤の処理適期幅は B_5 程度であるので、これら除草剤は雑草の生育ステージからみた処理適期幅は余り問題とならない。しかし、利用技

術上の処理適期の期間は、水稻の生育ステージと薬害との関係から制約をうけ、また粒剤は雑草の草高と殺草効果との関係から制約をうけている。とはいえ、現実的には地上散布である限り、これら除草剤は処理適期の期間が短くて困るということはないようである。

3. 多年生雑草対象除草剤

多年生雑草の防除に有効な除草剤については、現段階では有効な除草剤の開発途上にあるので、処理適期の期間の長短というような、ある意味ではぜいたくな注文はまだでてくる段階ではないようである。

4. ま と め

以上をまとめてみるに、畑地・水田ともに、処理法や対象雑草によって違いがあるにしても、利用技術上からみて除草剤の処理適期の期間の拡大は、今後の重要な方向の一つであるといえよう。とくに、今後の農業の発展方向と関連し、また除草剤散布の機械化や航空化と関連して考えてみるに、この問題の重要度は益々増大するのではなからうか。

昭和42年度畑作用除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和42年度畑作用関係新除草剤の作用および適用性判定試験成績検討会が客年12月11日東京日本都市センターにおいて開催された。

その結果の概要をここに紹介する。

1 供試除草剤の動向

まず今年度供試された畑作用除草剤を作物別にみると第2表のとおりである。

供試薬剤の動向をみるに、薬剤数については昨41年度が69薬剤、今年度が53薬剤（第1表）とやや減少した。一方、別途報告のマルチ栽培（ホーリーシート）を利用した関東東山地域における陸稲用、東北地域における畑水稲用として供試される薬剤の増大が目立ってきている。例えば、後者のマルチ栽培については昭和43年度には11薬剤が供試されることになっている。

2 昭和42年度の試験結果の概要

本年度は北海道を除き全国にわたり近年来まれなる異常かんばつであって、東北地域においては6月中旬～下旬と、7月中旬に異常かんばつに見舞われ、効果にふれがみられた。

次に今年度試験に供試された畑作用除草剤については、さきにも述べたとおり53薬剤であった。これらの中で、除草効果・作物に対する影

響（薬害）などから実用化可能と判定されたものは第3表の如く24薬剤である。また前記53薬剤のうち今年度始めて供試されたものは14薬剤であるが、これらのうち今年度の成績より特に有望として、来年度以降の試験に大きな期待がもちうるのが、MO-500乳剤、SW-6701水和剤、SW-4072乳剤、R-1607粒剤・NP-10水和剤などである。

なお、詳細については当協会発行の昭和42年度夏作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績集録、および同要録（印刷手配中）の各畑作編を参照されたい。

<第1表> 畑作用除草剤試験の推移

区 分	供 試 薬 剤 数			
	昭和40年度	41年度	42年度	43年度
畑作物一般	12	12	6	7
陸 稲	12	14	10	9※
春 小 麦	4	4	2	3
とうもろこし	7	4	3	3※※
甘 し よ	4	9	3	4
ばれいしょ	0	1	0	3
さとうきび	2	1	1	0
大 豆	11	10	3	5※※※
小 豆	2	4	3	1
菜 豆	1	1	3	4
落 花 生	6	5	7	3
てんさい	4	4	9	4
そ の 他	1	2	3	2
合 計	66	71	53	48

注) ※ この他、マルチ栽培（ホーリーシート）における陸稲および畑水稲用として11薬剤が供試される。
※※ 同上一トウモロコシ用として他に1薬剤を供試
※※※ 同上一大豆用として他に1薬剤を供試。

< 第 2 表 > 昭和 4 2 年度畑作除草剤供試薬剤成分一覧表

区 分	除 草 剤 名	剤型	有 効 成 分 及 び 成 分 含 有 率	委 託 公 社
1) 畑作一般	T D W - 3 9 (カバック 87)	乳	ベンジル-N, N-ジエチル ジチオカーバメイト 5 0 %	東 亜 農 薬
	T D W - 6 6 4 3 (カバック 48)	乳	ベンジル-N, N-ジイソプロピルジチオカーバメイト 5 0 %	東 亜 農 薬
	C M B U (ブチロン)	水和	N, P-クロルフェニル-N-メチル-N-イソブチニル ウレア 5 0 %	北 興 化 学
	S W - 6 7 0 1	水和	フェノキシピリダジン系化合物 5 0 %	三 共
	H W - 5 7	乳	スルホンアミド系化合物 1 0 %	保 土 谷 化 学
	トリフルラリン (トレファノサイド)	乳	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N- ジプロピル-P-トールイジン 4 7.9 %	シ オ ノ ギ
2) 陸 稲	M O - 6 0 0	乳	新ジフェニルエーテル系 2 0 %	三 井 化 学
	M O - 5 0 0	乳	2,4-ジクロル-6-フルオロ-4-ニトロフェニルエーテル 2 5 %	三 井 化 学
	A - 6 5 9 1	水和	ニトロ系化合物 5 0 %	日 本 農 薬
	A - 6 7 5 0	水和	ニトロ系化合物 5 0 %	日 本 農 薬
	M C C (スエップ)	微粒	メチル-N-(3,4-ジクロルフェニル)カーバメイト 2 0 %	S W E P 研 究 会 (日産化学)
	A - 1 8 0 3	微粒 水和	C A T : 0.2 8 %, プロメトリン : 0.7 2 % C A T : 1.4 %, プロメトリン : 3.6 %	日 本 化 薬
	バラコート (グラモキソン)	液	1,1-ジメチル-4,4-ビピリジリウム・ジクロリド 2 4 %	I C I , 日本農薬 武田薬品
	U C - 2 2 4 6 3	粒	3, 4-ジクロルベンジルメチルカーバメイト 5 %	長 瀬 産 業
3) 春 播 麦	H W - 4 0 1 8 7	乳	3, 5-ジメチル-4-ニトロフェニルエーテル 2 5 %	保 土 谷 化 学
	D C N P ・ M C P	水溶	D C N P : 7 1.4 %, M C P : 1 1.4 %	石 原 産 業
	T O - 2 (セレクト)	水和	チアゾール誘導体 5 0 %	東 洋 高 圧
4) とうもろこし	N P - 8	水和	安息香酸誘導体 3 0 %	日 本 曹 達
	N P - 1 0 (Herban)	水和	3-(ヘキサヒドロ-4, 7-メタノイダニル)-1, 1- ジメチルウレア 7 6 %	日 本 曹 達
	U C - 2 2 4 6 3	粒	前 掲	長 瀬 産 業
5) 甘 藷	A - 1 8 0 3	微粒	前 掲	日 本 化 薬
	H - 6 3 4	水和	3-シクロヘキシル-5, 6-トリメチレンウラシル 8 0 %	丸 和 物 産
	S T I - 1 0 0 (グラサイド)	乳	D C P A : 3 4 %, T W - 1 0 0 (シクロヘキセニルシクロヘキサノン) 1 7 %	ノ ハ ラ 農 薬
6) さとうきび	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
7) 大 豆	C N P (M O)	乳	2, 4, 6-トリクロルフェニル-4-ニトロフェニルエーテル 2 0 %	M O 普 及 会 (三井化学)
	A - 1 8 0 3	水和	前 掲	日 本 化 薬
	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
8) 小 豆	D C N P (クリノン)	水溶	2, 4-ジクロル-6-ニトロフェニルナトリウム 8 5 %	石 原 産 業
	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	H - 3 3 7	水和	P C P : 7 3 %, リニユロン : 5 %	丸 和 物 産

区 分	除 草 剤 名	剤型	有 効 成 分 及 び 成 分 含 有 率	委 託 公 社
9) 菜 豆	DCNP (クリノン)	水溶	前 掲	石 原 産 業
	CMBU (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	EPTC (エブタム)	乳	エチル・ジー・N-プロピルチオカーバメイト 72%	東 洋 棉 花
10) 落 花 生	CNP (MO)	乳	前 掲	M O 普 及 会
	A-1808 (キャンパロール)	微粒 水和	前 掲	日 本 化 薬
	CMBU (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	R-1607 (バーナム)	粒	N-プロピル・ジー・N-プロピルチオカーバメイト 5%	東 洋 棉 花
	UC-22468	粒	前 掲	長 瀬 産 業
	トリフルラリン (トレファノサイド)	粒	前 掲 粒 : 2.5%	シ オ ノ ギ
	CMMP (ダクロン)	水和	(3-クロル-4-メチルフェニル)-2-メチルベンタンアミド 45%	中 外 製 薬
11) て ん 菜	TCAA	水和	トリクロルアセトアミド 50%	へ キ ス ト
	PCA (ピラゾン)	水和	1-フェニル-4-アミノ-5-クロルピリダゾール-6 80%	北 興 化 学
	RO-40 (ロニート)	乳	S-エチルシクロヘキシルチオカーバメイト 72%	東 洋 棉 花
	EPTC (エブタム)	粒 乳	前 掲 粒 : 5% 乳 : 72%	東 洋 棉 花
	NK-3504	乳	ジニトロ系化合物 20%	日 本 化 薬
	H-669	乳	リニュロン : 15%, Cl-IPC : 35%	丸 和 物 産
	SW-4072	乳	— 20%	三 共
	PCA・TCA	—	—	北 興 化 学
12) 亜 麻	DCNP・MCP	水溶	前 掲	石 原 産 業
13) こゝにやく	H-326D	水和	リニュロン : 20%, DCMU : 30%	丸 和 物 産
14) 非農耕地 (ハマスゲ)	OK-6511	液	フェノキシ酢酸誘導体 : 21% マレイン酸ヒドラジド : 9%	大 塚 化 学

< 第 3 表 > 昭和 4 2 年度畑作関係実用化判定表

	実 用 化	実 ~ 継	試 験 継 続	継 ?	中 止
1) 畑作物一般			TDW-6643 乳 SW-6701 水和	TDW-39乳 HW-57 乳	
2) 陸 稲	MCC 微粒 A-1803 水和 UC-22463 粒		MO-500 乳 A-6591 水和 A-6750 水和 A-1803 微粒 HW-40187 乳	MO-600 乳	バラコート 液
3) 春 播 麦	DCNP・MCP 水溶	TO-2 水和			
4) とうもろこし		UC-22463 粒	NP-8 水和 NP-10 水和		
5) かんしよ	A-1803 微粒 STI-100 乳		H-634 水和		
6) さとうきび			CMBU 水和		
7) 大 豆	CNP 乳 A-1803 水和	CMBU 水和			
8) 小 豆		DCNP 水溶 H-337 水和	CMBU 水和		
9) 菜 豆		DCNP 水溶	CMBU 水和 EPTC 乳		
10) 落 花 生	A-1803 微粒・水和 UC-22463 粒	CNP 乳 CMBU 水和 トリフルラリン 粒	R-1607 粒	CMMP 水和	
11) て ん 菜		PCA 水和 (直播・移植) RO-40 乳 EPTC 乳 (直播・移植)	TCAA 水和 EPTC 粒 NK-3504 乳 H-669 乳 SW-4072 乳 PCA・TCA		
12) 亜 麻	DCNP・MCP 水溶				
13) こんにやく		H-326D 水和			
14) ハ マ ス ゲ			OK-6511 液		

< 第 4 表 > 昭和 4 2 年度畑作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
1 陸 稻	M C C 2 0 % 微 粒 剤	土 壤 処 理	6 0 ~ 8 0	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	・ 水 和 剤 に 準 ず る。 ・ 土 壤 が 乾 燥 し て い る と き は 使 用 を さ け る。
	A - 1 8 0 3 5 0 % 水 和 剤	土 壤 処 理	5 ~ 7.5	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	・ C A T, A - 1 1 1 4 に 準 ず る。
	U C - 2 2 4 6 3 5 % 粒 剤	土 壤 処 理	3 0 ~ 4 0	播 種 後	火 山 灰 土	暖 地 を 除 く 全 地 域	
2. 落 花 生	C N P (M O - 3 3 8) 2 0 % 乳 剤	土 壤 処 理	2 0 ~ 3 0	播 種 直 後	火 山 灰 土	全 域	
	A - 1 8 0 3 1 % 微 粒 剤	土 壤 処 理	7.5	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	・ 乾 燥 時 の 使 用 は さ け る。 ・ C A T, A - 1 1 1 4 に 準 ず る。
	C M B U 5 0 % 水 和 剤	土 壤 処 理	1 5	播 種 後	火 山 灰 土 (砂 壤 土 を 除 く)	暖 地 を 除 く 全 地 域	
	ト リ フ ル ラ リ ン 2.5 % 粒 剤	土 壤 混 和 処 理	5 ~ 6	播 種 前	火 山 灰 土	暖 地 を 除 く 全 地 域	・ 散 布 む ら に 注 意 す る。 ・ 散 布 後 で き る だ け 早 く 混 和 す る。
3. とう も し	U C - 2 2 4 6 3 5 % 粒 剤	土 壤 処 理	3 0 ~ 4 0	播 種 後	火 山 灰 土	東 北 を 除 く 全 地 域	・ 土 壤 が 乾 燥 し て い る と き は 使 用 を さ け る。
4. て ん さ い	P C A 8 0 % 水 和 剤	土 壤 処 理	4 8 ~ 6 4	播 種 後	火 山 灰 土	北 海 道 十 勝	・ 土 壤 乾 燥 時 に は 効 果 が お ち や す い。
			3 2 ~ 4 8 (+ 展 着 剤)	活 着 後	火 山 灰 土 沖 積 土	北 海 道 全 道	
	R O - 4 0 7 2 % 乳 剤	土 壤 混 和 処 理	4 0 ~ 5 0	播 種 前	火 山 灰 土	北 海 道 (空 知 を 除 く)	・ 散 布 後 速 や か に 土 壤 攪 拌 す る。 ・ 土 壤 湿 度 の 高 い と き は、 散 布 を さ け る。
	E P T C 7 2 % 乳 剤	土 壤 混 和 処 理	3 0	播 種 前 移 植 前	火 山 灰 土	北 海 道 (空 知 を 除 く)	・ 散 布 後 速 や か に 土 壤 攪 拌 す る。 ・ 土 壤 湿 度 の 高 い と き は、 散 布 を さ け る。
5. 大 豆	A - 1 8 0 3 5 0 % 水 和 剤	土 壤 処 理	7.5 ~ 1 0	播 種 後	火 山 灰 土	寒 地 に 限 る	・ イ ネ 科 雑 草 の 多 い と こ ろ で は 1 0 g / a が 適 当。
	C M B U 5 0 % 水 和 剤	土 壤 処 理	1 0 ~ 1 5	播 種 後	火 山 灰 土 (砂 壤 土 を 除 く)	寒 地 に 限 る	
	C N P (M O - 3 3 8) 2 0 % 乳 剤	土 壤 処 理	2 0 ~ 3 0	播 種 後	全	全 域	
6. 小 豆	D C N P 8 5 % 水 溶 剤	土 壤 処 理	5 0	播 種 後	火 山 灰 土	北 海 道	・ イ ネ 科 雑 草 の 多 い と こ ろ で は、 効 果 が 低 下 す る。 ・ 播 種 直 後 より 処 理 時 期 を 若 干 お く ら せ た 方 が よ い
	H - 8 3 7 7 8 % 水 溶 剤	土 壤 処 理	7 8	播 種 後	火 山 灰 土	北 海 道 (全 道)	同 上

	薬 剂 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使 甲 上 の 注 意
7. 甘 藷	A - 1 8 0 3 1%微粒剤	土壌処理	7.5 (前後)	植 付 後	火山灰土	全 域	・土壌が乾燥している時は 使用をさける。
	S T I - 1 0 0 5.1%乳 剤	雑草処理		生 育 期	洪積およ び冲積土	温暖地域	
8. 春 播 小 麦	T O - 2 5.0%水和剤	雑草処理	30~30	生 育 期 (小麦3 ~4葉期)	火山灰土	北 海 道 (全 道)	
	D C N P ・ M C P 82.8%水溶剤	雑草処理	20+4	発 芽 期	火山灰土	北 海 道 (全 道)	
9. 菜 豆	D C N P 8.5%水溶剤	土壌処理	50	播 種 後	火山灰土	北 海 道 (全 道)	・イネ科雑草の多いところ では、効果が低下する。 ・播種直後より処理時期を 若干遅らせた方がよい。
10. 亜 麻	D C N P ・ M C P 82.8%水溶剤	雑草処理	18+4	草丈5cm 期	冲積火山 灰性土壌	北 海 道 (全 道)	
11. ア ズ キ に	H - 3 2 6 D 5.0%水和剤	土壌処理	7.5~16	植 付 後	火山灰土	全 域	・出芽後の処理はさける。

昭和42年度水稻作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
(1) 移 植 栽 培 ・ 本 田	H-642 乳剤 (20%)	休閒田耕起前 雑草処理	15~20	耕起前 30~50日 (マツバイ)	全 土 壤	暖地普通期 栽培地帯 (マツバイ対 象)	・越冬芽からの発生が 揃った頃、マツバイ によくかかるよう均 一に散布する。 ・無漏水に近い水田で は使用をさける。
	PCP-Ca 粒剤 (44%)	移植前および 移植後土壌処 理	132	移植前1~3 日(植代後) 移植後 3~6日	PCP-Na 適用土壌	PCP-Na 適用地帯	・PCP-Na 粒剤に 準ずる
	PCP-Ca+MCP -Ca 粒剤 (30%+1%)	移植後土壌処 理 中耕後土壌処 理	PCP-Ca+ MCP-Ca 90+3	移植後4~7 日(活着後) 才1回中耕後	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)砂 壤土(減水深 1cm/日以下)	北海道を除く 全域 全域	・PAM粒剤に準ずる。
	DMP 粒剤 (1.44%+1.2%+ 1.2%)	移植後湛水土 壌処理	DBN+MCPB +PCP 8.6+3+3.0	移植後 5~10日	DBNに同じ	DBNに同じ (暖地のみ) (PCP規制 地帯除く)	・DBNに同じ
	暖地用K-86 粒剤 (1.7%+0.8%)	移植後土壌処 理	PCP+MCPE 51+2.4~ 68+3.2	移植後 4~6日	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	暖地の普通期 栽培	・PAMに準ずる。
	THW-45 粒剤 (17.0%+1.2%)	移植後土壌処 理 中耕後土壌処 理	PCP-OH+ 2,4,5-TP 51+3.6	移植後4~7 日および 才1回中耕後	壤土~埴土 (減水深2cm /日以下)	PAM適用地 帯	・PAMに準ずる。
	UC-22463粒剤 (5%)	移植後土壌処 理	30	移植後 5~8日	壤土~埴土 (減水深2~ 3cm/日以下)	全 域	・雑草発生盛期(ノビ エ1.5葉以下)の処 理が最適 ・小苗、軟弱苗のとき は、使用をさける。 ・処理時の深水(5cm 以上)はさける。
	改良MO-338 粒剤 (9%)	土壌処理	27	移植前 1~3日 移植後 2~7日以内 中耕後	全 土 壤	全 域	・MO-338粒剤に 準ずる。
	MGI 粒剤 (5%+1%)	土壌処理	MO-338+ Prometryne 15+3	移植後 5~10日	埴土~壤土 (減水深3cm /日以下)	普通期暖地	・極高温時の使用さけ る。 ・マツバイ多発田さけ る。 ・健苗使用
	P-P-12 粒剤 (1.7%+1.2%)	土壌処理	PCP+DCBN -3 51+3.6	移植後 5~10日 中耕直後 ~3日後	沖積層 壤土 ~埴土(縦渗透 0.5cm/日以下) 腐植質洪積火 山灰土(減水 深4cm/日以下)	DCBN-3より やや広い	・DCBN-3に準ず る。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	P・P-10粒剤 (20%+1%)	土壌処理	PCP+DCBN 60+3	移植後 4～9日 中耕後	壤土～埴土 (縦渗透 0.5cm/日)	PP地帯	PP地帯
	トリフルリン乳剤 (47.9%)	畦間土壌処理	10～14	移植後 4～7日	洪積火山灰、 沖積埴土～ 壤土 (減水深8cm /日以下)	平坦部普通 期(カヤツリ ・マツバイ 多発地帯を 除く)	水稻茎葉にかからない ようにする。
	トリフルリン A粒剤 (35%)	移植後 土壌処理	9～12	移植後 4～7日 (ノビエ1.0 葉期まで)	洪積火山灰 沖積埴土 ～壤土 (減水深8cm /日以下)	平坦部普通 期(カヤツリ ・マツバイ多 発地帯を除く)	・均一散布 ・適量使用
	バラコート液剤 (24%)	耕起前雑草処 理	7.2～9.6	荒起し1カ月 前から直前 まで (マツバイ)	全 土 壤	湿田を除く 全域 (マツバイ対 象)	・付近に作物がある場 合は、強風時の散布 をさける。 ・水量が多いときは非 イオン系展着剤加用。
	粒状水中2.4-D (3.0%)	分けつ中後期 雑草処理 (湛水処理)	9	有効分けつ 終止期から 幼穂形成期 前まで	埴土～砂壤 土 (漏水の大 きい水田は 除く)	暖地の普通 期栽培	・粒状水中2.4-Dに 準ずる。 ・マツバイに対する効 果は余り期待できな い。
	粒状水中MCP (3%)	分けつ中後期 雑草処理 (湛水処理)	9	有効分けつ 終止期から 幼穂形成期 前まで	埴土～砂壤 土(漏水の 大きい水田 は除く)	北海道を除 く全域	・粒状水中MCPに準 ずる。 ・マツバイに対する効 果は余り期待できな い。
	SL-661粒剤 (7.0%+1.2%)	移植後土壌処 理 (兼雑草処 理)	21+36	移植後 4～7日	壤土～埴土 (減水深3cm /日以下) 砂壤土 (減水深1cm /日以下)	中国以西の 普通期栽培	・ノビエ1.5葉期以内 の時期に使用。 ・その他はMCPCA に準ずる。
	NC-263粒剤 (30.0%+0.75% +0.75%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	PCP-Ca+ MCP+DCBN 9.0+2.25+ 2.25	移植後5～ 8日および 才1回中耕 後	沖積埴土～ 埴土 (減水深0.5 cm/日以下) 腐植質洪積 火山灰土 (減水深4cm /日以下)	北海道を除 く全域	・P・P-12粒剤に 準ずる。
	寒地用K86粒剤 (2.0%+0.6%)	中耕後土壌処 理	PCP+MCPE 60+1.8	才1回中耕 後	壤土～埴土 (減水深2cm /日以下)	寒地のPA M粒剤 適用地帯	・PAMに準ずる。
	TDW(30)-S 粒剤 (13%+1.8%)	植代前土壌処 理 移植前(植代 後)土壌処理 移植後土壌処 理	59+5.9～ 78+7.8 39+3.9 39+3.9	植代前 0～1日 植代後 0～2日 移植後 3～6日	壤土～埴土 (減水深3cm /日以下)	全 域 普通期栽培	・植代前処理では薬剤 が表層に分布するよ うに混層すること。 ・移植後処理では雑草 発生始期までに処理 する。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	MCC・MCP 粒剤 A剤1.5%+0.8% B剤2.0%+0.8% C剤2.0%+ 1%	移植後土壌処 理兼雑草処理	MCC+MCP 60+2.4	移植後 7～15日 (ノビエ発生 盛期から2 ～3葉期ま で)	砂壤土～埴土 (減水深2cm /日以下)	全 域	・減水深の少ない地帯で のみ使用。 ・ノビエ3葉期以上の使 用はさける。 ・殺虫剤との併用はD C P Aの場合と同様に 取扱う。
	MO-502粒剤 (1.0%+0.8%+ 6.0%)	土壌処理	MO-500+ MCP+ MO-338+ 3+2.4+18 ～4+3.2+2.4	移植後4～8 (ヒエ1.5L まで)	壤土～埴壤土 (漏水2cm /日以内)	普 通 期 全 域	・E310粒剤に準ずる。
	寒地用 MO-401粒剤 (8%+0.8%)	土壌処理	MO-338+ MCP酸 24+2.4～ 32+3.2	移植後 5～7日 中耕後	壤土～埴土 (減水深1.5cm /日以内)	東 北 北 海 道 普 通 期	・均一散布。 ・雑草のステージの進ま ないうちに散布する。 ・健苗使用。
	暖地用 MO-401粒剤 (6%+0.8%)	土壌処理	MO-338+ MCP酸 18+2.4～ 21+2.8	移植後 5～8日 中耕後	砂壤土～埴土	暖地 普 通 期 早 期	
	I H-613粒剤 (6%+1.3%)	土壌処理	MO-338 +DBN 18+3～ 24+4	移植後 4～7日 中耕後	壤土～埴壤土 (減水深1.5cm /日以内)	普 通 期 全 域	・DBN, MO-338 に準ずる。
	I H-613-P 粒剤 (6%+1%+1%)	土壌処理	MO-338+ DBN+245 TP 18+3+3～ 24+4+4	移植後 5～8日	壤土～埴土 沖積:0.5cm/日 以下の減水 洪積:4.0cm/日 以下の減水	普 通 期 全 域	・DBN, MO, P・P- 12の使用上の注意を まもる。 ・ただし魚毒には安全で ある。
	N I P-Q 粒剤 (6%+0.2%)	土壌処理	N I P+MCP アンモニウム塩 18+0.6～ 24+0.8	移植後 4～8日 中耕後	砂壤土 (減水1cm /日以下) 埴土～壤土 (減水3cm /日以下)	普 通 期 全 域	・ノビエの時期の適期散 布。 ・減水深, 土壌条件をよ く守る。
	H E-314乳剤 (25%)	土壌, 雑草処 理	20～40	移植後 5～10日 (ノビエ2L まで)	壤土～埴土 (減水2cm /日以下)	普 通 期 全 域	・漏水田, マツバイ多発 田を除く。 ・散布後7～6cmの水深 を保つ。 ・茎葉になるべくかから ぬよう散布。
	H E-314粒剤 (10%)	土壌, 雑草処 理	20～40	移植後 5～10日 (雑草の発 芽期から2L 期まで)	砂壤土～埴土 (極端に漏水 の大きいところ を除く)	普 通 期 全 域	・散布後水深6cm保つ。 (約5～7日) ・雑草のステージが進む とともに量を多くする。 ・マツバイ, コナギ多発 田はさける。
	H S-421粒剤 (12%+1%)	土壌処理	H F-314+ MCPエチル 36+3～ 48+4	移植後 5～15日 中耕後	壤土～埴土 (減水深2cm /日以下)	普 通 期 全 域	・散布時3～5cm水深を 守る。 ・均一散布, ノビエ多発 地の散布をさける。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
移 植 栽 培 ・ 本 田	SSH-21粒剤 (1.3%+1%)	土壌処理	トリフルラリン +ioxynil 3.9+3~ 5.2+4	移植後 4~8日	洪積火山灰 沖積埴土~ 埴土 (減水深3cm /日以下)	暖 地 普 通 期	・ カヤツリ・マツバイ の多いところはさける。
	MK-122P 粒剤 (11.25%+ 12.5%)	土壌処理	MK-122 +PCP-Na 45+50	移植後 4~7日 (雑草発生 始期~発生 盛期)	埴土~埴土 (減水深3cm /日以下)	平 坦 部 普 通 期	・ PCP規制地帯はさ ける。
	シメトリン粒剤2.5 (2.5%)	移植後土壌処 理兼雑草処理	7.5~10	移植後 5~15日 (ノビエ発 生始期から 3葉期まで)	砂埴土~ 埴土 (極端な漏 水田を除く)	全 域 (北海道は 除く)	・ 小苗、軟弱苗の場合 は、処理時の水深 (5cm以上)はさける。 ・ 使用量は移植後10 日以前では低薬量、 10日以降では高薬 量とする。 ・ マツバイ多発田では 除草効果が劣る。
		生育期雑草処 理	東北7.5~10 関東東山 5~7.5	ヒルムシロ増 殖初期 (移植後15 ~25日)	埴土~ 砂埴土	東北および 関東東山地域 (漏水田を除 く) (ヒルムシロ対象)	・ プロメトリン粒剤に 準ずる。
	シメトリン粒剤1.5 (1.5%)	移植後土壌処 理兼雑草処理	4.5~6	移植後 5~8日	砂埴土~ 埴土 (極端な漏 水田を除く)	中国以西 地域	・ シメトリン粒剤2.5 に準ずる。
	プロメトリン・ DBN粒剤 (1.15%+1%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	プロメトリン+ DBN 4.5+3	移植後 5~10日 (ノビエ1.5 葉以下) 才1回中耕 後	埴土~埴土 (減水深0.5 cm/日以下)	DBNおよび プロメトリン 適用地帯 (北海道は 除く)	・ DBN、プロメトリ ンに準ずる。
	A-1114-P (1.5%+1.5%)	移植後土壌処 理および中耕 後土壌処理	A-1114+ 2,4,5-TP 4.5+4.5	移植後 6~9日 (ノビエ1.5 葉以下) 才1回中耕 後	埴土~埴土 (減水深2cm /日以下)	プロメトリン 適用地帯 (北海道は 除く)	・ プロメトリンに準ず る。
	F-51 粒剤 (A剤 2% B剤 16%)	移植後土壌処 理	8+4	4日~8日	沖積埴土~ 埴土 (減水深2cm /日以下) 洪積火山灰土 (減水深4 ~5cm/日以 下)	北海道を除 く 全 域	・ 減水深の大きい地帯 を除く。 ・ 水稻活着後使用平均 気温20℃ 以下の ときは使用しない。
	2,4-D・ ATA水溶剤 (60%+28%)	生育後期雑草 処理	2,4-D 30 ATA 14	水稻出穂後 15日以上経 過した時期 で、落水直 前または直 後の越冬芽 形成前 (ヒルムシロ)	全 土 壤	北海道のみ (ヒルムシ ロ対象)	・ 無圧式散布機で噴口 を下げて稲体にもか からないよう畦間に散 布する。 ・ 落水直後の場合は、 土壌表面が乾燥しな いよう散布する。 ・ 粒剤を使用した方が 水稻に安全。

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
移植栽培・本田	2,4-D・ATA (カリアートル) 水溶剤 (60%+28%)	稲刈取後 雑草処理	2,4-D 12~18 ATA 5.6~8.6	刈取後 25日頃 (マツバイ)	全 土 壤	暖 地 (マツバイ対象)	・処理後多雨があつたときは再処理すれば効果が大い。
	2,4-D・ATA 粒剤 (10%+5%)	生育後期雑草 処理	2,4-D+ ATA 30+15	水稻出穂後 10日以上 経過した時期 (8月下旬~ 9月上旬) の越冬芽形 成前 (ヒルムシロ)	全 土 壤	北 海 道 (ヒルムシロ 対象)	・1処理時の水深を1 ~3cm, 止水をして 散布する。
	ACP-199 粒剤 (4.2%+1.8% +0.8%)	移植後湛水土 壤処理	ACP-296 + ACP-296 類塩 + MCPエチル 1.8+2.4~ 2.4+3.2	移植後 4~6日	砂壤土を除く 全土壌 減水深少ない 地帯	東海以西	・ノビエは8葉期前, 多年生雑草の少ない ところで使用する。
	PCP・MO化成 1号 (1.5%+0.5%)	植代前後 土壌処理	PCP-Na+ MO-338 60~20	植代前後 2~3日	砂土を除く全 土壌	普通期栽培 全 域	・PCP化成に準ずる。 ・早期栽培を除く。
(2) 稚苗移植栽培	N I P 粒剤 (7%)	植 植付前土 壤処理	21~25	植付前 1~3日	砂壤土~ 埴土	全 域	・減水深の著しいところ はさける。 ・植付後3cm以上の深 水はさける。 ・植付後処理は活着立 上りをみきわめて散 布する。その他移植 栽培N I P 粒剤に準 ずる。
		紙 植付後土 壤処理	21~25	植付後 4~6日	砂壤土~ 埴土	全 域	
		苗 播機 土壌処理	21	移植後 4~7日	壤土~埴土 (洪積~沖 積)	暖 地 普 通 期	
	HE-314粒剤 (10%)	土壌、雑草処 理	40~50	移植後 5~10日目	砂壤土~ 埴壤土	暖地普通期 稚苗栽培	・散布時および散布後 は深水(5cm位)を 維持する。 ・漏水の著しいところ は、使用しない。
	改良MO-338 粒剤 (9%)	土壌処理	21~28	移植後 5~8日目	砂壤土~ 埴土	全 域 稚 苗 栽 培	・植付状態を正常とす る。 ・その他MO-338 (CNP)に準ずる。
(3) 苗代畑苗代	MCC 水和剤 (40%)	播種後~生育 初期の土壌処 理兼雑草処理	(保温材使用) 20~30 (保温材無使 用)30~40	播種直後~ 稲出芽期	全 土 壤	全 域	・水稻の一葉展開期以 後の使用はさける。 ・有機磷剤, NAC剤 などの殺虫剤との混 併用はDCPAに同じ。

	薬 剤 名	処 理 名	使 用 量 (成分 g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
(4) 湛水直播栽培	CNP(MO-388) 乳剤 (20%)	土壌処理	25~80	播種前 3~5日	全 土 壌	全 域	・NIP乳剤に準ずる。
(5) 乾田直播栽培	MCC 水和剤 (40%)	播種後~生育 初期の土壌処 理兼雑草処理	(播種後) 40~50 (生育初期) 30~40	播種直後 ~稲出芽期	全 土 壌	全 域	・水稻の一葉展開期以 後の使用はさける。 ・有機燐剤・NAC剤 等の殺虫剤との混併 用はDCPAに同じ。

植 調 協 会 だ よ り

東南アジア5カ国の生育調節剤(除草剤)

利用状況調査団の派遣について

財団法人 日本植物調節剤研究協会では、昭和43年3月28日より4月23日にわたり、台湾・フィリピン・マレーシア・タイ・韓国における生育調節剤(除草剤)の行政、研究組織、利用状況、市場、委託等を調査するため、調査団を派遣する。

調査団の構成員は下記のとおり

記

調査団の構成員(順不同)

団長 行方直夫(保土谷化学工業)

団員 桜庭庄一(三菱化成工業)

〃 配野博之(三井化学工業)

〃 大橋正親(石原産業)

〃 渡辺誠二(大日本インキ化学工業)

〃 先本礼次(日本曹達)

〃 後藤宗玄(東亜農薬)

〃 水谷 信(イハラ農薬)

〃 吉沢長人(日本植物調節剤研究協会)

人 事 移 動

任 植調研究所 技 師 泉 宏一(2月)

任 植調事務局 技 師 楠瀬 健(3月)
技術部特作係

任 植調事務局 技師補 浅野紘臣(3月)
技術部普通作係

編 集 後 記

如月に発行する予定であった植調第9号は、ようやく弥生になって日のめを見ることができました。発刊が大変遅れたことを、読者の皆様に対し、深くお詫びします。

第1巻は、第10号まで発行する予定でしたが、とうとう、第9号で終わりを告げ、残りの材料は昭和43年度に持ちこすことになりました。次号は、第2巻第1号として装いを新たに、装幀もスマートな雑誌として皆様の前に出現いたしますので、よろしくお願いします。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188~9番

昭和43年3月発行 植調第9号 ¥50(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河 田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田 口 宏

東京都豊島区池袋7丁目2040番地

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1063番

タマネギ専用除草剤

ホクコー

アリセツフ水和剤

●タマネギに選択性があるので薬害の心配がなく、残効期間2ヶ月近くも雑草の発生を防止します。

2. 3. 6—TBA除草剤

ホクコー **トリバック** 粒剤10

●牧草地(イネ科)、林地(地ごしらえ)の除草に



北興化学

東京都千代田区内神田2-15-4
札幌・東京・新潟・名古屋・大阪・福岡

果樹やそ菜・水稻に 総合微量元素 葉面散布剤



サンピ3号は、作物に必要なすべての要素のほか、ブドウ糖、シヨ糖や各種の有機酸を添加した、理想的な葉面散布剤です。



大塚化学薬品株式会社

大阪・東京・福岡・鳴門

サンピ3号は、全国有名肥料店及び農協にて販売しております。

ノビエ、カヤツリ、コナギなど各種
水田雑草にすばらしい効きめ!!
その他マツバイにも有効です。

好評発売中!!

新しい《接触型+ホルモン型》の除草剤 (PCP・MCP除草剤)

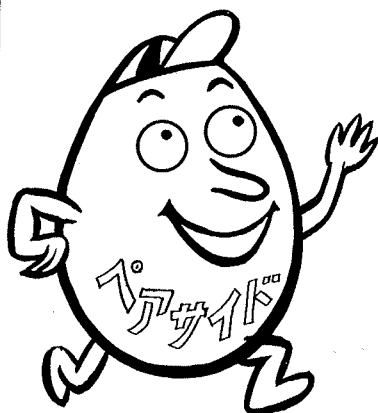
ペアサイド 粒剤

〈特 長〉

- PCP カルシウムがノビエ、カヤツリ等、水田初期雑草にすぐれた効果を発揮します。
- MCP カルシウムがマツバイなどの多年生雑草、コナギなどの広葉雑草や、ある程度、生育の進んだ稚幼期の雑草にも根茎、葉より吸収されて的確な効果を発揮します。
- PCP カルシウムとMCP カルシウムが力をあわせることにより、除草効果の範囲を更に広くし、また効力の持続期間を長くするために、水田の初期、中期にわたって使用出来、安全かつ効果のよい除草剤です。

〈使用方法〉

水田10アール当り本剤3kg(1袋)を苗活着後(田植4~7日頃)か、または第1回中耕後に田に水をはって散粒して下さい。



〈ペアサイド普及会〉

武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
八洲化学工業株式会社

■事務局

日本カーバイド工業株式会社
東京都千代田区丸の内3の2(新東京ビル)

〈資料進呈〉

ウリ類専用除草剤 (NPA)

山本アラナップ液剤

タマネギ専用除草剤 (PCA
BPIC)

山本アリセップ水和剤



山本農薬株式会社

大阪府和泉市府中町

大阪・東京

熊本・仙台